菅平・根子岳　山スキー

2021年1月9日

メンバー：Ｔ野・Ａ原・Ｉ崎・Ｙ科・Ｔ村Ｍ・Ｔ村Ｅ・Ｋ林・Ｍ上・ＨロＹ

この3連休、無情にも10年に一度の強い寒気が日本列島を覆うと天気予報が告げている。それなのにその言葉に逆らうように我々は豪雪地帯の妙高に宿を取ってしまった。ゴン降りで板のトップが出ないようだと我々の板の太さでは下りラッセルになってしまい気持ちよくパウダーに浮くことができない。「これは逃げるしかない。」これ、まさに「逃げるは恥だが役に立つ！！」を地でいく所業だ。

ヨッシャー！！逃げ切ってやる！！

ということで初日は妙高までの道中にある根子岳に行くことにして、前夜、「道の駅雷電くるみの里」で車3台メンバー9名が合流して仮眠。

翌朝、さすがに冷え込んでいる。コンビニの暖かい朝食とコーヒーで体を温めて菅平の奥ダボススキー場に向かう。読み通り天気は良い！！ただ、かなり寒い。車の温度計は - 14℃を指している。山頂はきっと - 20℃オーバーだろう。グローブはいつものテムレスを止めて、オーバーミトン＋ウールの手袋＋インナーグローブと最強装備にして、フード付きクワッドリフトに1本乗り、シールを張って出発。

■写真上　さあ、出発！！
■写真中　キーンと音が聞こえてきそうに冷えた樹氷の森。
■写真下　根子岳山頂！！

浅いドライパウダーを踏み分け歩くのは気持ちが良い。北アなど豪雪地帯の山々にはガッツリ雪雲がかかっているが、こちらは日差しがあり、風も弱く、歩いている限り寒くもなく非常に快適だ。登るにつれ、周りの木々は樹氷化してきて、厳冬期ならではの神々しい景色が広がる。コロナ禍の影響か、好条件にもかかわらず、キャットスキーはおろか、行き交うパーティーも数パーティーしかいない。緊急事態宣言が前日に発令されたわけだが、それ以前から自粛している人もきっと多いのだろう。我々は今さら中止する気になれずに山行を決行したのだが、とにかく早く落ち着いて欲しいものだ。

歩みを進めていくと、いつの間にか避難小屋を通り過ぎ、少し濃い樹林帯を抜ければ根子岳山頂だった。去年もこの時期に登っているのだが、去年は全国的な小雪の中、他の場所より多少なりとも雪のありそう

な標高の高いこの地に雪を求めてやって来た。同じ時期に今年は、雪の少ないこの辺りに豪雪から逃げてやって来た。そういう意味ではこの辺りは、変幻自在、なにかと便利で融通が利き、いざという時に頼りになるエリアである。

山頂でシールを外して滑降の準備をするが、風がほとんどないのに身も凍るような強烈な寒さだ。長居は無用、さっさと降りよう！！

去年もそこそこ楽しめたが、今回の根子岳の滑降はまさに極上！！全く抵抗のないスーパードライなパウダーを巻き上げて滑る至福の時間、文句なく楽しい！！登って来たルートの1本左側の尾根を滑るが、あっという間の高度を下げ牧草地に入るが、所々に有刺鉄線が隠れているので要注意だ。この辺りまで来ると日差しが暖かく感じ、落ち着いて1本とる。テルモスのホットココアとイチゴ大福でホッと一息！！

このまま降りれば、菅平牧場に下山できるが、我々は直接スキー場下の駐車場に滑り込みたかったので、右の沢沿いに入り沢床の右岸斜面をトラバース気味に自動滑走して行くと、思った通りに駐車場に滑り込めた。ただ、後半も滑降を楽しむのなら、そのまま牧場に向けて滑って、車道を歩いて戻った方がルートとしてはスッキリするかもしれない。

■写真上　ドライパウダー滑降乱舞！！
■写真中　牧草地まで降りで大休止。
■写真下　下部もドライパウダーで快適！！

まあ、いづれにしても、過去3回の根子岳では文句なく最高！！、転進して大当たりの1日であった。
早目に下山したので下道で妙高に向かうことにして、須坂にある「湯っ蔵んど」という日帰り温泉で汗を流したが、ここは、非常に広く、様々な種類の風呂があって価格も¥600とリーズナブルでこの辺りに来た時にはお奨めの温泉施設だ。覚えておいて損はない。

また、今回利用した宿は妙高ＩＣのすぐ側にある「一富久」という食堂。Ｔ村さん夫婦やＫ林さんからの情報で泊まったが、1泊素泊まり￥2500とこれまたリーズナブルで本業は食堂なので頼めば美味しい焼肉が満喫できてここもお奨め！！夕方には吹雪も収まり妙高山も顔を見せ、明日に期待が持て、焼き肉と美味しいお酒で大人の宴会を楽しんだ。

■コースタイム
スキー場トップ（9:25）～（11:20）根子岳（11:35）～（12:30）スキー場駐車場